

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
トリニティカレッジ 広島医療福祉専門学 校		平成9年3月26日	中川 潔		〒730-0014 広島市中区上幟町8番18号 (電話)082-223-1164	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人木村学園		平成9年3月26日	理事長 木村 創		〒730-0014 広島市中区上幟町8番18号 (電話)082-223-1164	
目 的	加齢や障害などによって日常生活を営むことが困難な人々に寄り添い、その人の心身の状況に応じた介護を行い、支えることができる高度な技術と専門知識を習得し、地域社会に貢献できる介護福祉士の育成を目指す。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社 会福祉	専 門	介護福祉学科	2年(昼)	2,375単位時間 (又は単位)	平成21年2月27日 文部科学大臣 告示第22号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		900単位時間 (又は単位)	660単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	815単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人		136人		5人	10人	15人
学期制度		■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～翌3月31日		成績評価	■成績表(有)無 ■成績評価の基準・方法について ・学科試験、実習評価、学習態度 の評価を100点を満点とし、 各科目60点を及第とする	
長期休み		■学年始め：4月1日～4月3日 ■夏 季： 1年次8月10日～8月21日 2年次8月10日～9月 4日 ■秋 季： 1年次9月6日～9月19日 ■冬 季： 1年次12月23日～翌1月9日 2年次12月23日～翌1月9日 ■学 年 末： 1年次3月15日～3月31日 2年次3月15日～3月31日		卒業・進級条件	・学年を通じて学業成績によって 総合的に判定する ・単位不認定の科目があれば、進級・ 卒業はできない	

<p>生徒指導</p>	<p>■クラス担任制 (有)・無)</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠課時数が1/5で保護者へハガキを郵送。保護者と出欠状況を共有し、学生の指導に連携して当たる。 ・担任制による学生指導と生活相談 	<p>課外活動</p>	<p>■課外活動の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携施設等の行事等のボランティア活動 ・広島県主催 「介護の日」イベント参加 ・広島市中区社会福祉協議会ボランティア登録 <p>■サークル活動 (有)・無)</p>
<p>主な就職先</p>	<p>■主な就職先、業界等</p> <p>介護老人福祉施設、介護老人保健施設、自立支援施設(知的・身体)、居宅サービス関連事業(グループホーム等)</p> <p>■就職率^{※1} 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 100%</p>	<p>主な資格・検定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士(国家試験受験資格) ・日本語ワープロ検定、 ・情報処理技能検定 ・プレゼンテーション作成検定試験 ・漢字検定 ・文章デザイン検定 ・赤十字救急法基礎講習修了者 ・赤十字救急法救急員
<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 8名 ■中退率 6.3 %</p> <p>平成27年4月 1日在学者127名(平成27年4月入学者を含む)</p> <p>平成28年3月31日在学者119名(平成28年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>進路変更、学業成績不振、心身体調不良、学費支弁困難などの経済的な問題</p> <p>■中退防止のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任が個人面談を繰り返し行い、生活習慣の見直しや勉強の方法などを指導 ・欠席日数が規定日数の1/5になるとはがきを保護者に郵送し、保護者と出欠状況を共有し、連携して学生の指導に当たる。 ・介護実習では巡回の回数を増やし指導を行う。また実習指導者に学生の状況を説明し、協力・指導の依頼をする 		
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://hiroshima.trinity.ac.jp</p>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

福祉現場が求める介護福祉士を養成するため、介護の現場で介護福祉士を指導する立場の職員及び本県介護福祉士の代表を務める教育課程編成委員の意見を参考に、授業科目の新設や変更を行う。また介護施設や介護実習指導者と密接な連携をとることにより、実際の福祉現場でのニーズを把握し、最新の介護知識・技術を授業に組み込むなど定期的に教育課程の工夫・改善を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年10月1日現在

名前	所属
廣山 初江	公益社団法人広島県介護福祉士会 会長
吉村 光伸	医療福祉法人仁鷹会 介護老人保健施設陽だまり 介護副主任
中川 潔	トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 学校長
竹越 徹	" 産学連携企画室 室長(事務部長)
宮崎 洋一	" 教務部 部長
吉岡 俊昭	" 介護福祉学科 学科長

(開催日時)

第1回 平成27年10月22日(木) 18:30~20:00実施

第2回 平成28年 2月24日(水) 18:30~20:00実施

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学内の講義や演習で学んだ知識・技術を、11週間470時間にも及ぶ特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設及び在宅関連施設等の介護実習においてより実践的に学ぶことが出来るよう、介護実習連絡会議及び介護実習巡回時の実習指導者との意見交換等により日常的に施設側と連携を取ることを基本方針とし、介護福祉士としての責任と役割を自覚できるよう連携を取りながら、地域や施設の現場で利用者の日常生活を適切に援助できる能力を養う。

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ	言語的コミュニケーションをとり、利用者の日常生活の支援方法及び介護職員の役割を学ぶ	訪問介護事業所、小規模多機能施設、介護老人福祉施設、介護老人保健施設
介護実習Ⅱ	介護実習Ⅰの実習内容および一人の利用者を選択し、介護過程の展開(アセスメント、個別援助計画の立案、実施、評価)を行う	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

高等職業教育機関の一翼を担っている専門学校の教育内容が高度化・複雑化している今日、教職員の資質向上を図ることは喫緊の課題である。そのため、本校においては、業界や企業が求める実務知識や効果的な指導方法を習得し教育内容や指導方法に反映することを目的として、関係専門職員、専門技術者を養成している諸施設・団体等において実施される一定の水準・実績を持つ研修・研究施設で研修させる。

年度初めに、学科ごとに自己申告書を踏まえた教職員の研修計画を提出させ、校長・事務部長・教務部長・学科長・学生課長からなる運営会議において協議・決定し、実施する。研修終了後、研修報告書を提出し、研修成果を報告させるとともに学科内において情報共有を図り、次年度以降の授業等の改善に資する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年2月1日現在

名 前	所 属
安西 和夫	学校法人進徳学園 私立進徳女子高等学校 校長
岡本 和也	卒業生代表 (本校同窓会 会長)
梶原 譲治	学校法人虹山学園 理事長
後藤 忠啓	社会福祉法人慈楽福祉会 理事長
田中 亜佐美	保護者代表
土谷 治子	特定医療法人あかね会 土谷総合病院 院長

(学校関係者評価結果の公表方法) 学校ホームページ (以下URL)

URL: <http://hiroshima.trinity.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法) 学校ホームページ、学校案内、高等学校向け説明会等

URL: <http://hiroshima.trinity.ac.jp>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉学科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の理解 I	人間の尊厳とは何か、人権とは何かを中心に、歴史をおいながら福祉専門職として理解しておかなければならない、人間を理解するための基本的な考え方を理解する。また、自立とは何かを整理し、自立を目指す支援方法として自己選択と自己決定の重要性と介護福祉士としての支援を行うための基本的な視点を学んでいく。	1前	30	1	○		
○			人間の理解 II	コミュニケーションの基本構造について学び、要援助者の介護援助に必要なコミュニケーション技法について理解する。また、要援助者が置かれている社会的な状況を把握するためのマッピング技法、介護専門職として働く際の、関係づくりのための人間の理解、援助者のバーンアウト、施設でのコミュニケーションについて理解する。	1前	30	1	○		
○			社会の理解 I	個人が自立した生活を営むためということを理解するために、個人、家族、近隣、地域、社会を通して人間を捉え、その関係性や過程について理解する。また、わが国の社会保障の歴史の変遷や基本的な考え方・しくみについて理解する。	1前	30	1	○		
○			社会の理解 II	介護保険制度と障害者自立支援制度について基礎的知識を把握し、権利擁護関連制度である成年後見制度や、保健医療に関わる諸施策などを理解する。	1後	30	1	○		
○			家政学 I	実習を通じて「食」に関する様々な技能を習得し、高齢者や障害者の生活を支援する力を養う。	1後	60	2			○
○			家政学 II	実習を通し、「衣・食・家庭経営」に関する様々な技術を習得し、高齢者や障害者の生活を支援する力を養う。	2前	45	1			○
○			統計・情報処理	MS-Excelを用いて表計算ソフトの基本操作を学習し、さまざまなデータの分析や視覚効果の高い表・グラフを作成できるようにする。また、情報処理技能検定	1後	30	1	○		

				(表計算)の資格取得を目指す。						
○			介護の基本Ⅰ	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えることができるようにする。	1通	60	2	○		
○			介護の基本Ⅱ	高齢者・障害者の生活を、保健・医療・福祉の専門職が、家族と協働して要介護者の生活ニーズを充足させるために利用できる介護サービスや自立支援サービスにはどのようなものがあるのか知る。 また他職種との連携の必要性や方法を知る。利用者の安全確保と介護者自身の健康管理について学ぶ。	2通	60	2	○		
○			介護の基本Ⅲ	介護を必要とする人への理解を深め、様々なサービスの概要を理解し、実際の生活支援技術を考える。また、介護福祉士として他職種との協働や制度の仕組みを理解する。	2通	60	2	○		
○			コミュニケーション技術	介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。また、人と関わる上で必要な感性を養う。	1通	60	2	○		
○			生活支援技術Ⅰ	生活と高齢者の生活支援について、リハビリテーションの視点をふまえて学ぶ。また、人と環境について学び、環境整備と福祉用具の活用を考える。加えて緊急時対応の方法を学ぶ。	2前	30	1	○		
○			生活支援技術Ⅱ-①	自立に向けた生活支援(家事援助)についての知識を習得する。	1前	30	1	○		
○			生活支援技術Ⅱ-②	自立に向けた生活支援(家事援助)についての知識を習得する。	2前	30	1	○		
○			生活支援技術Ⅲ-①	尊厳の保持の視点からどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術と知識について習得する。	1通	120	3			○
○			生活支援技術Ⅲ-②	生活支援技術Ⅲ-①に引き続き、安全に援助できる技術や知識を確実に身につけ、理解する。	2通	120	3			○
○			介護過程Ⅰ	介護過程の仕組み・目的を理解し、基本的な展開方法を習得する。尊厳の保持や自立支援の視点から個別のニーズに対応でき	1通	60	2			○

				る展開の方法を理解し、実践的な展開を行なうための基礎知識を身につける。						
○			介護過程Ⅱ -①	アセスメントより、情報収集の実際を学ぶ。正確な情報収集ができるための観察力、コミュニケーション能力を身につける。演習課題に取り組み、利用者に応じた介護過程を展開する力を身につける。	1 後	30	1			○
○			介護過程Ⅱ -②	アセスメントから評価までの思考過程を学ぶ。演習課題に取り組み、利用者に応じた介護過程を展開する力を身につける。	2 前	30	1			○
○			介護過程Ⅲ	チームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を理解し、チームアプローチによる利用者支援の実際について理解を深める。また、実習で行った介護過程から、「生活することの意味」「人生の尊さ」「介護福祉士としての仕事の魅力」などを学ぶ。	2 後	30	1			○
○			介護総合演習Ⅰ	介護実習とは何かを理解し、介護実習Ⅰに必要な知識や技術を確認する。	1 前	30	1			○
○			介護総合演習Ⅱ-①	実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。演習課題に取り組み、介護過程を中心とした知識・技術、他職種協働の視点を学ぶ。	1 後	30	1			○
○			介護総合演習Ⅱ-②	実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。演習課題に取り組み、介護過程を中心とした知識・技術、他職種協働の視点を学ぶ。	2 前	30	1			○
○			介護総合演習Ⅲ	事例研究の進め方を学び専門的知識と技術を文章化できるようにする。 介護実習で実施した介護過程の展開を、事例研究としてまとめ、発表する。	2 後	60	2			○
○			介護実習Ⅰ	言語的コミュニケーションが比較的可能な利用者との人間的なふれあいを通して、利用者の特性を理解する。利用者の日常生活を知り、介護の機能ならびに施設職員の一般的役割について理解する。初歩的な日常生活援助ができる。	1 前	90	2			○
○			介護実習Ⅱ-①	利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。利用者のニーズを充足するための情報収集ができる。医療・看護との連携の方法について学ぶ。利用者の状態について観察し、正しく記録できる。	1 後	180	4			○

○		介護実習Ⅱ -②	施設運営のプログラムに参加し、処遇全般についてチームの一員として理解するとともに、個別援助計画・記録について理解を深める。在宅介護（デイサービス、ショートステイなど）に対する理解を深め、利用者の家族や地域に対して果たすべき介護福祉士の役割を学ぶ。	2 前	200	5				○
○		発達と老化 の理解Ⅰ	発達の観点から、老化を考える。老年期における発達課題や、心理的特徴、老化に伴う心身の機能の変化について基礎知識を学習する。	1 前	30	1	○			
○		発達と老化 の理解Ⅱ	高齢者の特徴を理解したうえで、高齢者に多い疾患の基礎的知識について学習する。	1 後	30	1	○			
○		認知症の理 解Ⅰ	医学的側面からみた認知症の基礎を学ぶ。認知症に伴うこころとからだの変化を学ぶ。認知症の行動・心理症状を理解し、その対応を学ぶ。認知症の人へのアプローチのあり方を学ぶ。	1 後	30	1	○			
○		認知症の理 解Ⅱ	認知症の症状に応じた介護のあり方を学ぶ。認知症の人が「その人らしく暮らす」ために、地域における連携と協働について学ぶ。家族の力を活かすため、地域とどう協働すればよいかを学ぶ。認知症に関する制度・関係機関について学ぶ。	2 前	30	1	○			
○		障害の理 解Ⅰ	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解し、本人や家族も含めた周囲の環境への配慮についても学習する。	1 前	30	1	○			
○		障害の理 解Ⅱ	障害のある人に関する基本的な知識を理解し、家族を含めた環境について学ぶ。また、行政機関との連携や地域におけるサポート体制について学習する。	1 後	30	1	○			
○		こころと からだのしく みⅠ	介護福祉士が支援していくうえで必要な利用者理解のための基本として、人のこころとからだのしくみを理解する。 人の心理的側面のみならず、「死」についての考察を深め、死と直面する相手と向き合えるようになることを目指す。	1 後	30	1	○			
○		こころと からだのしく みⅡ	介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解する。	1 前	30	1	○			
○		こころと からだのしく みⅢ	身じたく、活動、食事、入浴・清潔保持、排泄それぞれに関連したこころとからだのしくみを学び、介護実践の根拠を理解する	2 通	60	2	○			

○		医療的ケア I	医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的知識を習得する。	1 後	30	1	○		
○		医療的ケア II	医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的知識を習得する。	2 通	60	2	○		
○		医療的ケア 演習	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。	2 後	30	1		○	
○		パソコン I	パソコンおよびMS-Wordを用いたワープロの基本操作を学習し、表やFAXなどの文書作成に作成できるようにする。 また、日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。	1 前	30	1		○	
○		パソコン II	前期ではMS-PowerPointを用いて、プレゼンテーション能力を身につける。また、プレゼンテーション作成検定の資格取得を目指す。 後期では事例研究用文書（MS-Word）、事例研究用発表原稿（MS-PowerPoint）、論文を作成し、事例研究の発表及び論文と質疑応答が行えるようにする。	2 通	60	2		○	
○		レクリエーション	レクリエーションを通じて利用者の生きがいを保障し、QOLの向上を図ることができるよう、利用者の身体的・知的・情緒・精神的・社会的などの視点から現在の様子を理解し、それらの客観的な事実や利用者自身の全生活に対する欲求や要求を的確に把握するちからを養う。また、人々の生きる喜びを生み出す「レクリエーション支援」に焦点をあて、レクリエーションの理論を展開する。	1 通	60	2		○	
○		国語表現法	医療・福祉・介護の現場で働く社会人として必要な表現力の基礎・基本を講義と演習によって学び、言葉の機能を十分に働かせるための知識・技能・方法を身につける。	1 前	30	1	○		
○		手話	聴覚障害者への正しい理解と基礎知識を学ぶ。聴覚障害者講師から指導を受けながら、日常会話および医療現場で必要な単語を習得し、聴覚障害者とのコミュニケーション力を高める。	1 前	30	1		○	
○		総合演習 I	介護福祉士としての専門知識の習得を行い、国家試験に向けた試験対策を行う。	2 通	60	2		○	

○		総合演習Ⅱ	介護福祉士としての専門知識の習得を行い、国家試験に向けた試験対策を行う。	2 後	60	2		○	
○		就職実務	就職に向けて、履歴書の書き方、求人票の見方、面接方法などを理解し、就職活動に役立つ力を養う。また、現場で働いている諸先輩の話を聞き、職場を選ぶ参考にし、社会人としての働くことの意味を見つける。	2 前	30	1		○	
合計				47科目		2,375単位時間（72単位）			